

特別支援学校（ろう学校）高等部3年

「総合的な探究の時間」でのココロ部！ 『外国から来た転校生』を活用して
～様々な文化をもった人たちと、共に生きるために～

東京都立立川ろう学校 服部 千草

【実践の概要】

本校高等部3年生は、毎年「総合的な探究の時間」のテーマとして、国際理解について学んでいる。知識として、国によって文化が異なると理解は出来ても、自分の生活の中で実感し、考える機会はとても少ない。この番組、ココロ部の『外国から来た転校生』は、日本の高校に転校してきた外国人の生徒のふるまいから「自分ならどうすればよいか」と考えることができる内容になっている。日本で暮らしている様々な文化をもった人たちと、共に生きるためにはどうしていけばよいのかを、自分のこととして考えることができる学習となった。

【実践紹介】

高等部3年 総合的な探究の時間「国際理解」
～多文化理解、共生社会～

今年度はこれまでに、ニュージーランドやタイのろう学校と交流するために、日本の文化を紹介する取組みとして、和菓子を粘土で作成し、交流校に送っている。コロナの関係で、直接交流は行えていないが、JICA 地球のひろばや TOKYO GLOBAL GATEWAY (TGG) などにも行って、いろいろな文化に触れ、共通言語である英語での実際の交流などの経験もして **粘土細工和菓子** ↑ きた。



ただ実際に、様々な文化をもっている人と、課題にぶつかりながら、共に生活するという経験はできていない。この『ココロ部』“外国から来た転校生”を視聴することで、自分のこととして問題を捉え、自分の考えをまとめ、話し合いを行い、どうすればよいか、共生社会を生きる上での1つの考え方を学んだ。
—授業展開—

○本時の目的を確認する。

- ・日本に住んでいる外国人の価値観について、考える。
- ・「コジマくん」が困っていること、自分がその立場ならどうするのか考える。

○番組を視聴する。(7分40秒まで)

Q1. コジマくんはどうしたらよいと思いますか。その理由も書いてください。

- ・ワークシートに記入する。自分の意見、班の意見
※個人で考えた後、班に分かれて話し合い、発表する。

○番組を視聴する。(続きから最後まで)

Q2. 外国の人たちと共に暮らすために必要なことは何だと思えますか。

- ・ワークシートに記入する。自分の意見、班の意見
※個人で考えた後、班に分かれて話し合い、発表する。

○まとめを行う。

Q3. この学習から考えたことをまとめてください。

- ・ワークシートに記入し、本時の振り返りを行う。

【活用番組と実践者による番組分析】

活用番組「ココロ部」

○様々な迷いがあるとき、どちらがよいのか、自分の気持ちと他者の気持ち、どちらを優先すればよいのか、他にも方法はないかなど、自分の問題として考えることができる。

○結論が出ないまま番組が終わることで、自ら具体的な課題を発見し、自分の気持ちと向き合うことが出来る。自分の考えをもった上で、話し合うことで主体的・対話的で深い学びとなる。

【本実践における工夫点】

年間計画の中での学びの順番（12月に実施）

国際理解は、高等部3年の総合的な探究の時間の年間を通したテーマである。今年度の生徒は、海外の学校と交流するにあたり、日本文化の紹介に和菓子を選んだ。次にTGGやJICAの見学で、海外の文化に触れる経験をした。その上で、あまり経験のない自分の生活圏内に、異なる文化が入ってきたとき、異文化に向き合うために学校放送番組を活用した学習を、この時期に設定した。

放送回の選定

生徒たちがあまり経験できないことを考えさせる状況を設定するのに、番組視聴はたいへん有効である。総合的な“学習”の時間のころから、この回は視聴させている。日本人にはなかなかないタイプの転校生とのやりとりを見て、共生社会を生きる生徒にとって、深い学びになると思い設定した。

【本実践の成果○と課題●】

○前半を視聴した後は、相手の文化も理解するが、日本の文化、校則についても理解してもらうように話をするという、互いの文化理解に留まった意見が多かった。後半を視聴した後は、先生にも相談し、学校としてブラジルの文化について理解してもらうなど、共生社会の考えに、近づく考えが増えた。

○結論は出さない構成であるが、社会情勢などの情報を知るだけで、自分の考えをブラッシュアップすることが出来ていた。

●まだ柔軟な考え方をもちことが出来る高校生の中に、考えられる番組の視聴時間をより確保し、主体的・対話的で深い学びの時間をさらに増やしていきたい。